

学園報 和泉

●●●●● 学校法人クラーク学園 ●●●●●
創立五十周年記念号

2006年5月13日

発行人：平 良
編集：入試広報課
発行所：学校法人クラーク学園
〒229-8522
神奈川県相模原市青葉2-2-1
電話 042(754)1133

クラーク学園のあゆみ

一九五二年、アメリカにあるキリスト教会に連なる多くの人々の祈りと米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンド(CCF)の援助のもとに社会福祉法人基督教児童福祉会が設立されました。日本国内においてさまざまな児童救済活動を行ってきましたが、昭和三十年代に入ると、如何に施設に携わる方々を育てるか、教育すべきかが重要な課題となりました。同時に施設に従事している保母、職員の高質向上を図るための訓練講習会を開いてほしいとの要望が起りました。

そのため基督教児童福祉会は、一九五六年四月東京都世田谷区玉川中町に故パット博士を記念した「パット博士記念センター」(パット博士記念養成所とパット博士記念ホーム)を開設し、同年五月現任訓練講習会が開催されました。

一九六〇年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学校」となり、一九六五年に「和泉短期大学」が設立されました。一九七六年に、規模拡大のため東京都世田谷区中町より相模原市に全学移転。一九八五年には時代の要請に先駆けたケア・ワーカー養成機関である「和泉老人福祉専門学校」(現和泉福祉専門学校)が設立されました。



J.C.クラーク博士

Dr. Calvitt Clarke

本学を運営する学校法人クラーク学園の名称の由来となったJ.C.クラーク博士は、アメリカの財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンド(CCF)を創設し、世界各国で児童福祉事業に生涯をささげられた方です。



願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを

願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを
わが国に播かれた福祉施設従事者現任訓練機関パット博士記念養成所という種子は、二〇〇六年を以って五十年を経ます。おかげさまで多くの方々のご支援とお励みにより、今日まで着実な歩みをなして参りました。これも偏に和泉短期大学と和泉福祉専門学校を卒業された皆様の働きや多くの方々の努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申しあげます。

聖句

わたしが与える水は
その人の内で泉となり、
永遠の命に至る水がわき出る

ヨハネによる福音書四章十四節

一九七六年八月
学校法人クラーク学園は、神奈川県相模原市に和泉短期大学の校舎を新築して、全学移転しました。

一九八五年四月
全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・和泉老人福祉専門学校(現・和泉福祉専門学校)老人福祉科を和泉短期大学に近接して開校しました。

一九八八年四月

和泉老人福祉専門学校が介護福祉士養成機関として認定されました。和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設しました。(二〇〇三年度より休止)

一九九一年四月

和泉短期大学児童福祉科で社会福祉士任用資格が取得できるようになりました。和泉老人福祉専門学校老人福祉科から介護福祉科へ名称を変更しました。

一九九九年四月

和泉老人福祉専門学校から和泉福祉専門学校へ校名を変更しました。

二〇〇〇年四月

和泉短期大学児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更しました。

二〇〇二年四月

和泉短期大学が共学制を導入しました。

二〇〇四年十二月

五十周年記念事業として体育館竣工

二〇〇六年七月

クラーク学園創立五十周年 子育てサロ(仮称)開設

一九六六年四月
和泉短期大学に幼児教育を志す学生のために、児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置しました。

一九五五年九月
J.C.クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するため、G.E.パット博士、V.J.ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設(現・児童養護施設)の助成を開始しました。

一九六〇年五月
当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉界の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、福祉従事者の現任訓練機関「パット博士記念養成所」を東京都世田谷区玉川中町に開設しました。これが本学の前身です。

一九六五年四月
現任訓練の成果は、施設保母(現・保育士)養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母(現・保育士)養成機関「玉川保母専門学校」が設けられることの実を結びました。

一九六六年四月
和泉短期大学に幼児教育を志す学生のために、児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置しました。

五十周年を祝して

相模原市長

小川勇夫



を受けているところでございます。

学校法人クラーク学園が、創立五十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴学園は、昭和三十一年にバット博士記念養成所として設立され、創立当初から人間形成における幼児期教育の重要性を唱えるとともに、「愛」と「奉仕の心」そして「確かな技術と知識」といった建学の精神を大切にしていまを迎えられました。

とりわけ全国で唯一、単科制の短期大学として「児童福祉学科」を設け、実習を基礎に高い資質を備えた保育者の育成に努めてこられましたことは、高い評価

を受けているところでございます。昭和五十一年には、東京都世田谷区から本市へ移転され、新天地相模原での運営が始まったわけでございますが、この移転に際しましては一方ならぬ御苦労があったものと御推察いたします。以降、三十年にわたり緑あふれる相模野の大地に根を張り、高度な児童福祉教育を実践できる指導者を数多く育ててこられました。

また、昭和六十年には全国初の老人福祉ワーカー養成校である「和泉老人福祉専門学校」を併設し、時代のニーズを的確に捉え、いち早く介護福祉教育の分野にも取り組むなど、本市の福祉施策の推進に御貢献いただきましたことに感謝申し上げますとともに、敬意を表する次第です。

さて、本市は去る三月二十日に、津久井町・相模湖町と合併し、新「相模原市」としてスタートいたしました。今後は、

新市の財産（たから）である「人や自然」、「産業」、「文化」などが調和し、誰もが生き生きと暮らせる新しい広域交流拠点都市を、市民の皆様とともに考え、協働しながら創造してまいりたいと考えております。

近年の子どもを取り巻く環境は、出生率の低下や核家族化とともに地域コミュニティの希薄化などにより、大きく変化しております。こうした中、本市におきましては、これまで推進してきた「新さがみはら子どもプラン」を見直し、次代を担う子どもと子育て中の家庭を総合的に支援する「相模原市次世代育成支援行動計画（さがみはら いきいき親子応援プラン）」を策定し、子どもが心豊かにたくましく育つ環境づくりに努めているところでございます。

これからも輝く子どもたちの健やかな成長と未来のために、本市の良きパートナーとして、より一層の御協力を賜りますことをお願い申し上げます。

創立五十周年をひとつの節目として、貴学園のますますの御発展と関係の皆様への御健勝を祈念いたしまして、お祝いのごとばいたします。



バット博士記念センター前にて



バット博士記念養成所

創立五十周年を 迎えて



クライク学園
理事長

平 良

クライク学園は創立五十周年を迎えました。この間には玉川保母専門学院の時代も、現任訓練と言った講習会の時代も含まれるので、短大としては四十年ということとなります。また専門学校は二十年の歴史を持っていることとなります。その間に学園の創立に苦心し、又現在の相模原に移転するにあたってご苦労いただいた数多くの先輩がおられますがその多くは既に天国にめされてしまいました。幸いに残された者がこの晴れがましい時を祝うことになりました。

私達の学校は子どもや老人に奉仕する志を持った働き手を育てて行く学校であります。その根源にはキリスト教の精神に裏付けられた愛の志を持った人を育てる場所であります。この学校の設立がアメリカの志を持った先輩に刺激され、日本の同じ仲間によって育てられて来た事を思い出してみましよう。この学校の設立に導いた基督教児童基金の設立がクライク先生の「それでは私がやりましょ」と言ったことから始まったに過ぎないものであるように決して気負ったものではないことを思い浮かべて私たちも自然にこの事業を受け継いで行きたいものになります。

福祉国家ということが言われるようになって五十年を経ました。私達は福祉国家に見られる利益を享受することだけを

考えて、福祉国家であるための負担を担う心構えが備わっていないように思われます。これには高い税金や社会保険料の負担を伴うものであるとともに根源においては社会的弱者と言われる人々に対する奉仕の精神を欠かすわけにはいきません。この学校での学びがそうした心を育てて行くのに役立つように祈っています。

小さな学校ではありますが、志を強く持って未来を開いて行く先立ちでありたいと願っています。



玉川保母専門学院前にて



和泉短期大学校舎正面玄関



和泉福祉専門学校校舎正面玄関

「二つの」記念誌 を読んで



和泉短期大学
学長

伊藤忠彦

この度、クラーク学園を記念して二つの記念誌が刊行されました。一つは、クラーク学園の設立母体となったCCF(基督教児童福祉会)の創立者クラーク博士と米国CCFの誕生に遡る前史に始まり、二〇〇六年にいたるクラーク学園の歴史を綴った「学校法人クラーク学園創立五十周年誌」、他は、このクラーク学園の歴史の形成に、何らかの関わりをもってきた卒業生を含める関係者の、証言集、文集として編纂された「愛のいずみ かぎりなく」です。

五十年史を通じて知り、深く記憶に残

せん。

記念誌「愛のいずみ かぎりなく」を通じて知ったことは、原稿を寄せて下さった卒業生の多くが、本学の学びと生活を通して、福祉に必要な知識と技術を学んだだけではなく、建学の精神を表わす「愛と奉仕」を思い起こしていただいていることです。

二年間の学びと生活は、卒業生の皆さんにとつて、束の間の時であったに違ひありません。しかし、その束の間の時が、どんなに大きな意味ある時となっているかを知って、和泉の教育に関わってきた者として、感動しないではられませんでした。

本学の卒業生の総数は一三〇〇を超えました。今も、多くの卒業生が児童福祉、幼児教育に従事しておられます。

本学も急激な社会の変化に応じて行かなければなりません。しかし、変わることのない「キリストのいずみ」から湧き出る愛と奉仕の精神に立つ、教育の場であり続けなければならないと、あらためて思わされています。



和泉クラーク・ホール 外観



和泉クラーク・ホール内 パイプオルガン

五十周年に寄せて

和泉福祉専門学校
校長

宮本和武



学校法人クラーク学園が創立され、五十周年を迎えることができたことを感謝いたします。クラーク学園創立五十周年記念誌作製の担当者として、正史である五十年史の編纂と役員・教職員・卒業生・学生などのインタビューや投稿などをまとめた記念誌の編集に携わることになり、準備をし、記念式典に間に合わせる事ができました。苦慮したことの一つは、学校法人クラーク学園の創立は、一九六五年（昭和四十年）であるにもかかわらず、一九五六年（昭和三十一年）四月、米国バージニア州リッチモンドのクリス

チャン・チルドレンズ・ファンド（CCF）によって、バット博士記念センター（バット博士記念ホームとバット博士記念養成所）の開設の時であることが理事会で承認され、学校法人クラーク学園三十年誌が編纂され今日に至っている。学校法人クラーク学園の創立は、バット博士記念養成所の開始が、学園創立の「起点」または「興り」であると記述した。学園が、今日までどのように歩んできたのかを辿ってみると、決して平坦な道であったとはいえない。寧ろ、困難さの中で創立に携わったリーダーの人々の使命とビジョンによっていたのではないだろうか。CCFによって、児童の福祉のために用いられたと同時に、児童の養育に携わる職員の現任訓練機関の設立に力を注ぎ、短期養成から長期養成へと踏み出す原動力は、眞鍋頼一理事長・中島武

夫 学長・大谷嘉朗学監（園長）・儀賀精二 常務理事などの力によるところが大きい。三十年を経て学校の形が造られ、五十年で発展してきたことは学園の歴史上明らかである。学園の理事長・学長・校長は、就任にあたり、聖書一冊が手渡される。聖書によって教育事業を進め、次の担い手につないできた。

これからのクラーク学園は、何処に向かつて歩むべきであろうか。学校は教育機関である。特に、社会福祉の現場で働く社会福祉専門職であるケアワーカー養成を、この五十年間担ってきたことを継続し、新しい社会のニーズに応じて行くことができる学園であり続けるべきであろう。また、CCFによって興された事業所が、連携し、協働していく姿勢が重要であると考えられる。与えられた者が他者に奉仕する者に変えられ、「愛と奉仕」の連鎖を作っていくことであり、育んでいくことによって、平和な社会が実現することに近づく。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」（コリントの信徒への手紙 3:6）



総合グラウンド



体育館

学校法人クラーク学園 創立50周年記念事業募金報告

役員
 石田 周平 奥沢 行雄
 平 良 豊福 義彦
 新美 臣江 森山みね子
 布施 英雄
 眞鍋 恵三
元役員
 阿部 栄子
 河井 希充
 讃岐 和家
 深町 正信
元評議員
 大串紀代子
専任教員
 伊藤 忠彦
 武石 宣子
 中島 弘光
 中村美津子
 原田 康子
 藤川いづみ

寄付者ご芳名

(順不同・敬称は省略させていただきます)

この度は、クラーク学園創立50周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多大のご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。

2006年4月14日までにご寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告いたします。

なお、当局が受理しました日付で処理いたしておりますので、多少のずれが生じている方もあると存じますが、何卒ご了承をお願いいたします。

理事長 平 良

非常勤講師
 伊勢田奈緒
 岩野 秀俊
 上田 祥子
 河本 芳子
 岸 勝利
 佐野みよこ
 篠崎 明弘
 鈴木 啓三
 瀬戸 賢二
 曾我 幸男
 谷内 邦彦
 戸田 朱美

元教職員
 (非常勤を含む)
 阿部 千秋
 加藤眞理子
 川崎 正博
 北崎 照
 窪 龍子
 倉田 早織
 佐藤 蘭美
 下西 潤子
 杉山 佳子
 高瀬智津子
 福井 昭雄
 福崎 淳子
 宮本 綾子

専任職員
 今泉 治子
 加藤 正春
 今野 和隆
 佐藤 公啓
 島崎 千春
 鈴木 あや
 土橋 正文
 平塚 豊
 村山 徳淳
 吉田 耕也
 渡辺 角男

非常勤職員
 岡安 珠里
 小澤由美子
 隈元真由美
 小池 友子
 古賀 綾子
 長谷川由起子
 藤本 そで

【短大】卒業生
 青柳真由美
 青山 祐子
 阿部 静子
 石井由希子
 石田はるみ
 上田 弓子
 大内美智子
 大澤 秀子
 大塚真光子
 大和久恵美
 沖津みや子
 小倉 敏子
 小野由美子
 柿澤美代子
 加藤喜代美
 川崎 英美
 神田 暁子
 菊池 妙子
 久保田文江
 国府田智子
 今 ひろみ
 佐々木朋子
 佐々木芙佐子
 佐藤 淑子

宮下富士子
 横川 剛毅
 長尾 大
 長尾 満里
 名雪 充美
 山西 和枝
 山田 幹子
 山本 悦子
 横田 園
 佐藤 町子
 佐藤三津子
 志村すい子
 関根 謡子
 高梨 誉子
 高梨 浩江
 鷹野 直子
 高橋 和子
 田口喜久江
 武田 陽子
 田中 益代
 玉手 恵美
 戸田 美穂
 殿岡 泉
 中島千恵子
 永富 彌古
 難波 美穂
 西永 智子
 野原 良枝
 登 好美
 春原ひろみ
 樋口 羊子
 樋山 智子
 平本 昌子
 廣川美由紀
 古川 佳子
 堀 里子
 前田 清子
 牧野 由香

益田千恵子
松屋 友子
宮沢 薫
村内 道子
森山 祐子
山口美智子
山崎久美子
横山みゆき

【短大】在學生
(本年三月の卒業生も含む)
淺野 俊美
阿部 信男
荒井 義一
石川 智
石川 要
石川 明廣
石川 秀樹
石田 達也
潮田 健治
榎戸 茂
遠藤 幸雄
大濱 夏生
小澤 彰
金井 佳男
金杉 正敏
亀岡 嘉孝
河端 授
菊地 文夫

乘原 信也
小池 教興
小泉 久之
後藤はる子
五味 優
小宮 誠市
古宮 良一
齋藤 繁
齊藤 孝
齊藤美恵子
坂本 正則
坂本裕美子
笹井 清
佐々木俊次
篠崎 文泰
篠原 俊幸
島田 敏秋
角谷 博一
関矢 清
高橋 和博
高橋 真美
高村 雅裕
田後 毅
田中 進
谷 武
土屋 沙知
富澤寿美映
外谷 清治
永井信一郎

仲田 勇次
中平 有紀
中村 正治
名和 正司
橋本 美菜
光 一彦
福田 成年
藤原 巧
古谷 正直
星屋 奈々
巻島 好広
松本 正厚
森園 治夫
森田 賢治
安池 京子
矢部 和夫
山内 規男
山口 昭
山崎 逸郎
山中 浩
山本 勉

【専門】卒業生
赤嶺真由美
石田 信正
石田 雅彦
今井 千鶴
大塚 恵子

岡田 康子
風間 元広
金子恵美子
川手 恒子
北畠 透
木暮 丈嗣
櫻井 幸江
志田 妙子
島谷 尚子
菅田 大輝
高橋 直子
竹田 勝成
中島伊佐子
中畑 宏幸
新野 道子
林 ひとみ
高橋志帆子
藤原 征子
森久保和子
渡邊 洋

【専門】在校生
(本年三月の卒業生も含む)
鈴木忠二郎
安部 一宗
荒尾 由希
石田 耕治
井上亜由美
釜元 由起

加藤 幸佑
加藤 勇次
亀井 幸弘
木下 孝生
久津間正実
久保山達道
小嶋 秀
齊藤亜沙希
酒井 満
鈴木 暉夫
須藤 清
瀬崎 芳裕
戸丸 雅幸
中村 隆
平井 章夫
平林 敏男
三神 和夫
森西 功
湯原 隆男
和田 厚志
綿引 裕

父母
安福 信二
岩本 光雄
内山 義彦
遠藤 房枝
岡 義雄
亀井 朝日

合計人数
277名
合計金額
11,265,311円

木下 重夫
久場 俊男
志村美佐子
角谷 貞夫
中富 明美
山下 正信
山本ひろみ

その他
和泉短期大学学友会
前会長 巻島 健佑
和泉短期大学フオー
クソフクラフOG
相模原歯科医師会
相模原フェニックス
会長 沼田 明幸
関処ソフトクラブ
専門学校卒業生・
三上家
ソフトボール愛好会
日本介護福祉教育学会
日本基督教団相模原教会

ステンドグラスを製作するにあたって

和泉短期大学助教授 佐藤 守男
(国画会会員)
 (キリスト教美術教会会員)

クラーク学園は今年五月で創立五十年を迎え、記念事業として、クラークホールにステンドグラスを入れることになりました。ホールの天井近くの窓、左右五枚ずつ計十枚に毎年二枚ずつ入れていく予定です。全ての窓にステンドグラスの入ったクラークホールはすばらしい景色を見せてくれることでしょう。一枚の窓の大きさは、約185cm(高)×150

cm(横)でかなり大きいものです。

最初のテーマとして、キリストの降誕を描いた『クリスマス』を選びました。この場面は、聖書では「飼い葉桶」と訳されていますが、讃美歌では「馬槽(まぶね)」となっていて、「馬小屋」と思っている方が多いのです。

左記のデザインは10分の1のものです。お披露目はホームカミングデイの十一月十八日を予定していますので、『クリスマス』を迎えるのにちょうど良い時期かなと思います。

少しでも多くの方に見て頂けたらと思います。



子育て支援センター開設

学長 伊藤忠彦

本学は50周年記念事業のひとつとして、本年の6月(予定)から、子育て支援事業を始めます。

このセンターの開設は、本学の教職員と学生が、この事業にあたり、支援を必要とされる方々の一助となること、また、この支援を通して私共が体験し、学び、より良い保育者の養成にあたりたいとの願いによるものです。

次の二つの事業を結びつけて行います。

(1) 子育てサロン(仮称)

本学の施設の一部を、地域の子育て中の保護者と子どもに開放し、教職員と学生が作り上げた遊び場に参加してもらいます。子育ての援助を受けながら、保護者が子育て仲間を作り、積極的に子育てに参加できるようになること、また、学生が企画や雑務に参加し、コミュニケーション力、企画力、管理(安全・衛生)等の力を身につけることを目指します。

ること、また、学生が企画や雑務に参加し、コミュニケーション力、企画力、管理(安全・衛生)等の力を身につけることを目指します。

(2) FM放送講座「子育てQ&A」(仮称)

コミュニティー放送局「エフエムさがみ」の協力を得て、家庭におられる子育て中の保護者からの質問に、本学の教員が回答することから始めます。既に、エフエムさがみのネットを介して質問が寄せられています。



和泉短期大学ホームカミングデイ開催のお知らせ

本学開設以来はじめて「ホームカミングデイ」を開催します。キャンパス(在校生・教職員)と卒業生を結びつける「出会いの場」としてお互いが新たな発見や刺激を受けられるようなイベントとして考えておりますので、卒業生のみなさん、ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

日時：2006年11月18日(土)10:00~15:00

場所：和泉短期大学

会費：無料(当日軽食を用意いたします)

内容

開会礼拝、卒業生によるキーワードトーク、退職教員からの一言、ファッションショー、パイプオルガン演奏、懇談会など(予定)

なお、同日和泉福祉専門学校におきましても、ホームカミングデイを開催いたします。